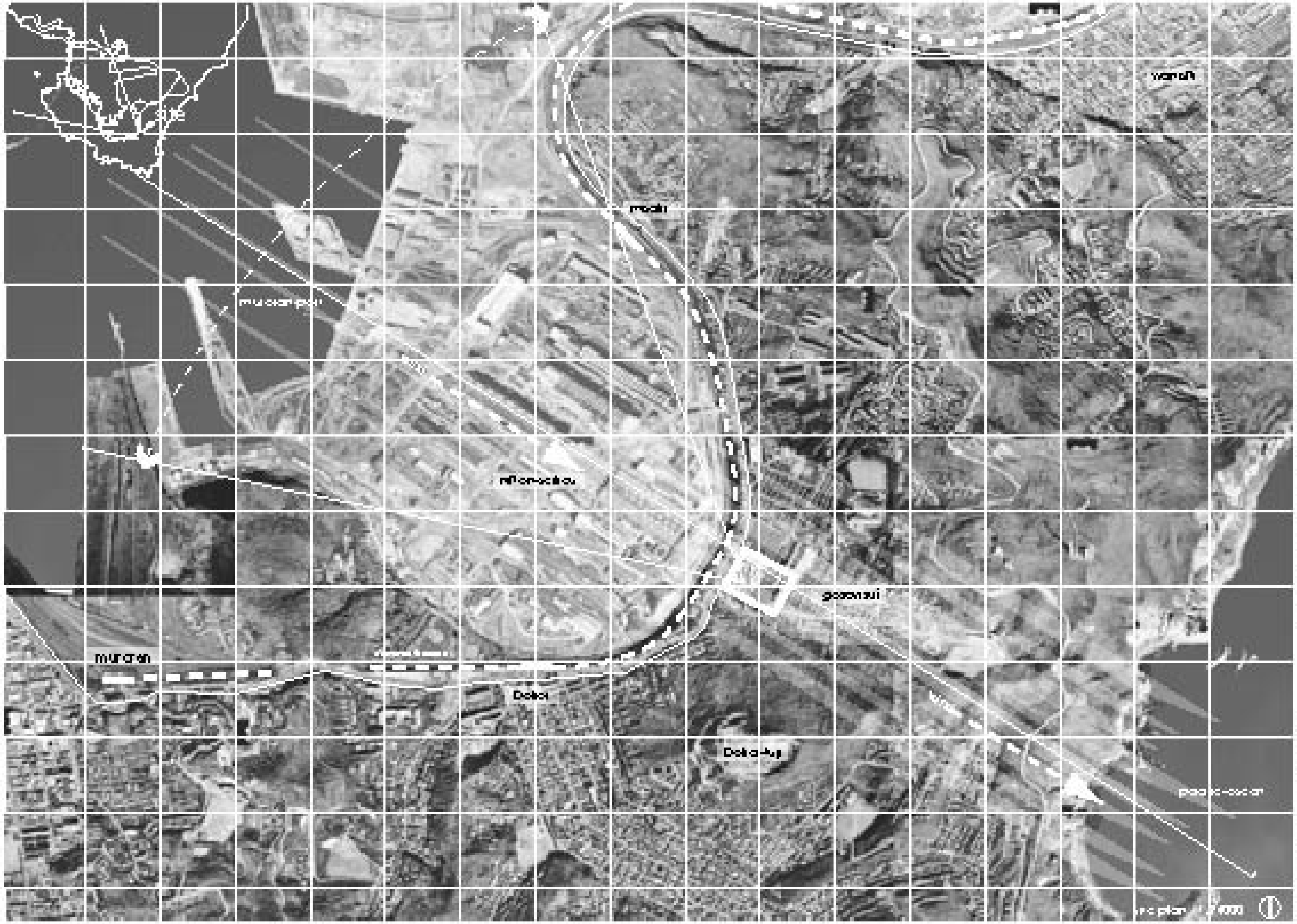
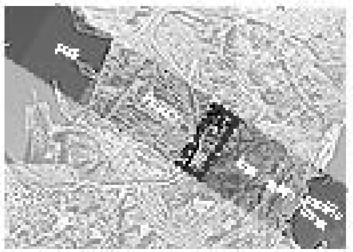


site

一北海道室蘭市御前水町　日本製鋼所社宅跡地

鉄で成り立っていたマチ

室蘭は戦前，戦後の日本の成長を鉄を中心とした産業で支えてきた，その中で多くの人々が工場で働くために集まり，都市が発展していった，工場という生産装置の出力に人々の生活が集まり，マチが成り立っていた，しかし，大きな時代の流れの中で，室蘭の鉄鋼もかつての力を失っていく，工場という生産装置，つまり都市が成立するための機能を失ったマチは廃れ，人々の生活は離れつつある，今後室蘭が生き続けるためには，生産装置に依存しない，すなわち工場との新しい関係の中で豊かな人々の生活の場を前提としたマチに転換していくことが必要である，

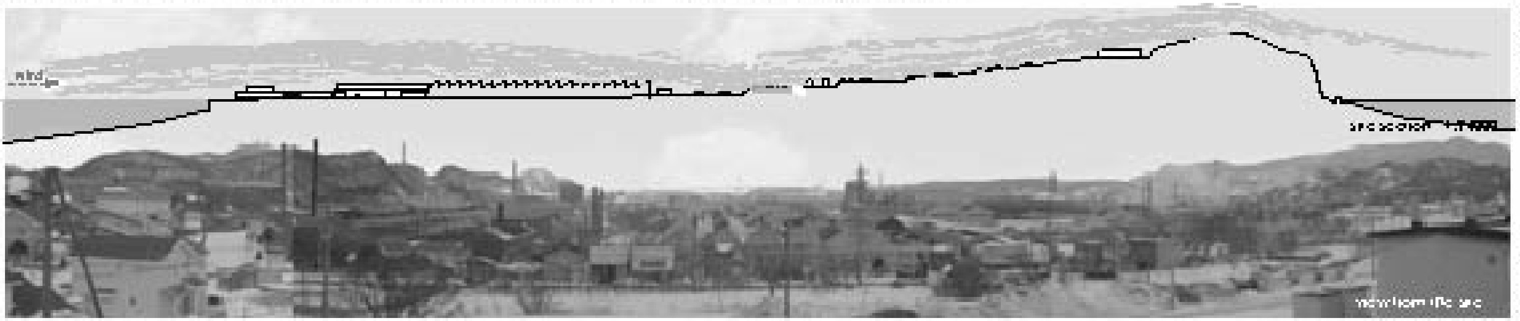


都市のvoid

かつて工場で働き，室蘭を支えた労働者達が生活を営んだ住宅，現在は工場の衰退と共に人々も去り，老朽化した住宅も次々と取り壊される運命にある，そのような状況の中で，住宅のあった敷地は，跡地利用もままならず，現在のマチ(戸建て住宅地)と工場の間に存在するvoidとして物理的にも両者の関係を分断している，この敷地をマチと工場をつなげ直していく敷地として再定義していくことが必要である，

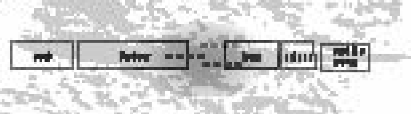
室蘭の風

風の強いマチとして知られる室蘭，卓越風である北西の風は白鳥大橋をくぐり抜け，工場群をすり抜けたあと敷地である
に御前水町達する，かつてその風は，工場の蒸気や匂いをマチに運び両者を結ぶものでもあったが今は冷たく厳しい，



concept

バラバラになってしまった工場とマチ，昔から変わらず工場を抜け，マチをすり抜ける風，
この風の様に様々なものを１つの流れに織りあわせる，そんな建築を構想する，
風の流れ，或いは人の流れに置換され，風が様々なものを織り合わせるように人々の活動，そしてマチと工場を結びつける，



program

これまでの働く場と住む場という関係ではなく，室蘭の１つのアイデンティティである鉄
を中心とした創造の場―コミュニティカレッジとして計画する，